

〔テーマ〕施設を育てる—施設開業後の市民協働の可能性について

◇開催年月日・時間:令和7年10月4日(土)14:00~16:10

◇開催場所:地域交流センター赤石楽舎 会議室

◇参加者:参加者計19名(1班6名+2班6名+3班7名)

コーディネーター1名+ファシリテーター3名+アシスタント6名

市役所事務局3名+図書館課3名 見学3名

I 開会・報告・意見交換(ワークショップ)の検討テーマの解説

(1)報告事項

- ◇ 第3回ワークショップの振り返り(ひとりでも楽しめる拠点イメージ+交通+情報)
- ◇ 第2回検討委員会への市民WSでの検討成果報告について
- ◇ 第2回検討委員会の討議内容・総括の報告

(2)意見交換(ワークショップ)の検討テーマの解説

『施設を育てる』をテーマに、開業後ににぎわい拠点で市民がどのような形で参加できるか?

- ・図書館の運営に関して ・伝承機能の展開に関して ・広場での利用・活用に関して
- ・インキュベーションでの相談(ソーシャルビジネス等)と創業に向けて

II 意見交換(ワークショップ)の総括

①各機能の担当部局間の連携を強めて魅力的な施設づくりに期待

複合機能を構成する施設について、市役所内では教育委員会(図書館)、文化財、商工、中心市街地、都市計画、企画等、様々な部署で実現に向けて検討されていると思われる。各部署の垣根を下げて、部署間の連携を強めて、利用者目線での施設づくりに期待したい。

②それぞれの機能が“掛け算の思考”により生じる魅力的な活動・サービスの展開に期待

図書館、伝承機能、インキュベーション機能のそれぞれにおいて魅力的な活動・サービスが実現することはもちろんのこと、各機能が掛け合わさることで生じる活動・サービスにも期待したい。例えば、図書館にインキュベーションや起業・創業・経営・組織論等に関する書籍・情報や、織物・地元企業に関する書籍、情報コーナーの設置、インキュベーションで生まれたソーシャルビジネスの試験的な場の創出等が想定される。

③市民の声(期待)が継続して届く仕組みづくりに期待

4回のワークショップを通じて、利用者の視線で様々なアイデアが提案された。これらの意見に傾聴され、アイデアの一つ一つの実現に尽力いただきたい。また、実現までの様々な機会に、市民の声(期待)が届くような仕組みを継続的に設けられたい。なにより大切なことは、構想で終わらず、実現・実行することである。



□4つの機能に対する市民のかかわりのほか、拠点運営の全体に関わる市民参加の在り方として、市民ワークショップのように市民が意見を言える場や機会の必要性が挙げられた。

□また、これまでの意見やアイデアを実現させていく重要性についても意見が出され、今後にぎわい創出に向けてかかわる市民の活動やその頑張りが継続できるように市民の意識醸成を含めたサポートが必要であるとの意見が出された。

拠点全体	□施設の活用や運営に対して、市民が気軽に意見を言うことができる場や機会（市民ワークショップや意見交流会の開催（オンラインも含む）、意見箱の設置） □市民のサポーターやボランティアなどによるかかわりづくり □障害のある人も参加しやすい、参画できる仕組み（バリアフリーも） □整備に向けたさまざまな市民アイデアをもとに、賑わいづくりに向けていかに人を呼び込むかが重要 □市民や団体のかかわりを継続させていくためのサポート（定着させるには時間がかかる）
図書館	□市民や学生もかかわりやすくするための市民限定の福利厚生 □市民参加型のイベント（読み聞かせや紙芝居など）、市民が自由に持ち寄り・持って帰ることができる本コーナー □図書館で子どもを預かる機能や仕組み □移動図書館との連携による遠方の人や情報のマッチング □図書館に来なくても、パソコンやスマホで本を読める機能
織物伝承	□成人式や誕生日、七五三などの記念日に銘仙を着て写真撮影する文化の定着 □銘仙を普段着として着る文化醸成、レンタル銘仙、銘仙着せ替え電子パネル □銘仙の歴史や織物の見学などを通して高齢者から若者・学生に伝える
インキュベーション	□運営にかかる資金的支援のかかわり（クラウドファンディングや協賛店の売上の〇%の寄付、銘仙募金など） □起業のノウハウ発表会や交流会、プレゼン大会、起業のデータベース化、就活生向けのイベントや交流会 □市内の子ども食堂と農家さんの連携の仕組み作り、フードバンクの情報拠点 □くわまるのデザイン無料化 □新しい銘仙づくりを起業につなげる
広場	□広場を活用した定期的な市民イベント（市民が伊勢崎の魅力を伝えるイベント）の開催と資金的支援 □テーマごとのまちなか探検会の開催、アーティストや芸人を呼ぶ



第②班の成果・発表



- 全4回にわたる市民WSを通して、にぎわい創出拠点について色々な想いが共有されたが、「伊勢崎の原風景」として市民の心に残るような拠点の整備を期待したいとの意見があった。
- 時代が移り変わる中で、新しい時代の「絆」づくりに資する拠点となってほしいという想いをベースに、「自分だったら何をしたい(何ができる)か」という視点でも多くの意見が出された。

拠点全体	☐ 施設の情報発信(YouTube、TikTok等、SNS発信スタッフ) ☐ 見て楽しいPOP制作スタッフ ☐ わくわくする人(ボランティア)を受付に ☐ ((不用品等の)ゆずりますコーナー(ボードの設置)の管理・運営等
図書館	☐ テーマ別、年代別の図書館運営協議会への参加 ☐ 「図書館だより」などのタイムリーな情報発信への協力 ☐ 本の読み聞かせボランティア・古文書等の整理ボランティア ☐ 本の紹介・アドバイザー(流行の本、古典) ☐ 新刊おススメ本などを楽しいPOPにする等
織物伝承	☐ 織物だけでなく広く伊勢崎の歴史についての語り部 ☐ 織物文化、並びに関連する文化・技術(編み物等)のインストラクター ☐ 銘仙試着コーナーのアドバイザー・インストラクター ☐ 織物の端切れなどを使った市民アートの展示・レンタルボックスの設置等
インキュベーション	☐ 創業支援アドバイザー(起業した人の紹介、座談会、学生とのマッチング等) ☐ 創業希望者へのオンライン相談アドバイザー ☐ チャレンジショップ・市内飲食店等のメニュー試食会への出店等
広場	☐ キッチンカー・Pop-up shopの出店・管理への参加 ☐ 子どもに昔遊びなどを教えながら一緒に遊ぶプレイリーダー ☐ キャンプファイヤーやダンスなどの楽しいイベントの企画・実施等



第③班の成果・発表



□市民参加の在り方として、施設への来訪としての関わりと施設運営として関わることもある。今回のWSでは後者の意見が多く出された。

□にぎわいを生むためには、拠点での経済活動が誘発されることを基本におくことが大切であるとの意見があった。

拠点全体	□施設の情報発信(動画作成、学生記者による発信、音声ガイド、POPづくり等)
図書館	□図書館のボランティア活動(運営スタッフ等)、読み聞かせボランティア、蔵書のメンテナンス等への参加 □市民の蔵書の期間限定での展示 □テーマ毎の会合の組織化・会合への参加 等
織物伝承	□興味・関心のない人へのアピール □文化伝承のインストラクター・ガイドの育成・組織化
インキュベーション	□共通価値創造型の起業・創業、NPO活動等への支援(支援制度の創設、運営スタッフとして参加等) □高校生も参加できるチャレンジショップ・お試し実証実験の場づくり □(仮称)社会課題解決活動センターの運営スタッフとしての参加 □各企業の特徴をアピールできる場の創設(企業としての参加)
広場	□キッチンカーの出店・管理への参加 □広場でのイベント(年間スケジュール)の企画・運営としての参加



施設を育てる — 施設開業後の市民協働の可能性について — にぎわいについて

経済的なことも含め
市民協働とする!!

全体

施設
紹介動画

情報
の
拡散

POP張り
音声ガイ
ダリ

伝承機

図書館

各種
図書館ボランティア活動
への参加
（運営スタッフ）

図書館
ボランティア活動
の意義
（運営スタッフ）

本の
メンテナンス

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

読書開始
ボランティア

個人を
当選させ
スポンサー
1ヶ月間

毎月、
タイを求
め合える
がある

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

市民が持
てて本を
読むこと
が目的

毎月、
各チーム
が本を
読むこと
が目的

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

おススメの
本を紹介
する

自分の好
きな本の
会をやる

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

図書館の
本のメンテナンス
（ボランティア）

インベ
ンション

「共通価値創造」型企業
の創業者を支援する
制度・事業プログラムの
運営スタッフとして参加

「社会課題解決」
型企業を支援する
制度・事業プログラムの
運営スタッフとして参加

「社会課題解決」
型企業を支援する
制度・事業プログラムの
運営スタッフとして参加

「社会課題解決」
型企業を支援する
制度・事業プログラムの
運営スタッフとして参加

「社会課題解決」
型企業を支援する
制度・事業プログラムの
運営スタッフとして参加

「社会課題解決」
型企業を支援する
制度・事業プログラムの
運営スタッフとして参加

「社会課題解決」
型企業を支援する
制度・事業プログラムの
運営スタッフとして参加

「社会課題解決」
型企業を支援する
制度・事業プログラムの
運営スタッフとして参加

「社会課題解決」
型企業を支援する
制度・事業プログラムの
運営スタッフとして参加

「社会課題解決」
型企業を支援する
制度・事業プログラムの
運営スタッフとして参加

「社会課題解決」
型企業を支援する
制度・事業プログラムの
運営スタッフとして参加

「社会課題解決」
型企業を支援する
制度・事業プログラムの
運営スタッフとして参加

「社会課題解決」
型企業を支援する
制度・事業プログラムの
運営スタッフとして参加

「社会課題解決」
型企業を支援する
制度・事業プログラムの
運営スタッフとして参加

居企業が
自身の会社を
アピールする
場内を作る

居企業が
自身の会社を
アピールする
場内を作る

居企業が
自身の会社を
アピールする
場内を作る

居企業が
自身の会社を
アピールする
場内を作る

居企業が
自身の会社を
アピールする
場内を作る

居企業が
自身の会社を
アピールする
場内を作る

居企業が
自身の会社を
アピールする
場内を作る

居企業が
自身の会社を
アピールする
場内を作る

居企業が
自身の会社を
アピールする
場内を作る

居企業が
自身の会社を
アピールする
場内を作る

居企業が
自身の会社を
アピールする
場内を作る

居企業が
自身の会社を
アピールする
場内を作る

居企業が
自身の会社を
アピールする
場内を作る

居企業が
自身の会社を
アピールする
場内を作る

居企業が
自身の会社を
アピールする
場内を作る

おめでとう!
大成功の
場

おめでとう!
大成功の
場

おめでとう!
大成功の
場

おめでとう!
大成功の
場

おめでとう!
大成功の
場

おめでとう!
大成功の
場

おめでとう!
大成功の
場

おめでとう!
大成功の
場

おめでとう!
大成功の
場

おめでとう!
大成功の
場

おめでとう!
大成功の
場

おめでとう!
大成功の
場

おめでとう!
大成功の
場

2025.10.4 3班

継続的
取り組み

Ⅲ 全体討議

4 回のワークショップを通じて、皆様方の「伊勢崎愛」を強く感じました。最後に参加者の方々から「言い足りなかったこと」「これだけは伝えておきたい」等を、カラー用紙に記入いただき、是非この場で一言いただきたいと思います。



〔参加者からの総括意見(抄)〕

- ◇ このまちに生まれてよかった、と思える施設にしていきたい。
- ◇ 幼少の頃は本当ににぎわっていた。にぎわい拠点が実現して、またにぎわいの風景を見てみたい。
- ◇ にぎわいの原点は経済活動にあると思う。地域の経済発展につながるきっかけとなる拠点となることを願っている。
- ◇ 障がい者も来訪できるような施設となってほしい。
- ◇ 市民の方々と話せる機会をいただき、感謝したい。是非、実現されることを強く願っている。
- ◇ 参加者の皆さまの熱い思い、具体的で魅力的なアイデアが多く出て時間が足りないくらいのワークショップであった。ワークショップでの意見・声が消えないようにしてほしい。施設が完成した際には、このメンバーで再会し、施設の運営支援に関わりたいと思う。
- ◇ ワークショップでの明るい雰囲気づくりに努めました。妄想に近いアイデア、ごく限られた人の意見であることは理解しているものの、一つでも実現することを願っている。個人的には“足湯でコミュニケーション”することを夢見ている。



**ワークショップの最後に「熱い思い」を発言いただき、ありがとうございました。
(時間の関係で皆様から一言いただけず申し訳ありませんでした……)**

〔市長からの感謝(抄)〕



タイトなスケジュールの中で、4回のワークショップに参加いただき、貴重なご意見をいただいたことに感謝いたします。

- 新しい公民連携の整備手法で実現することを目指している。
- 3つの拠点整備から伊勢崎のまちなかに“にぎわい”を戻し、伊勢崎のまち全体への波及をめざしている。
- 50年、100年先においても、市民の「知の拠点」として市民のより処となる拠点として育つように拠点づくりに取り組みたい（抄録）



全4回の市民ワークショップへの参加、ありがとうございました。
にぎわい拠点への熱いメッセージもいただきました…

